

ふくいじょうあと 9. 福井城跡

所在地：福井市中央1丁目

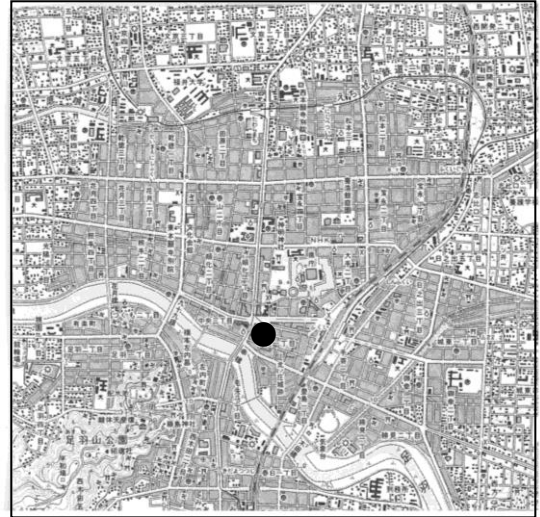
調査原因：ホテル建設に伴う発掘調査

調査期間：平成29年9月26日～29日

調査主体：福井市教育委員会事務局文化財保護課

調査面積：計90㎡

時代：近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 調査地は、福井城の南外曲輪の一角にあたります。文化8年(1811)の様相を描いた『福井分間之図』では「勘定所」とあることから、藩の財政・民政を行なう役所があったと考えられます。

この一帯では、平成5年度に北隣(北陸銀行)で実施した発掘調査で、柴田勝家が築いた北ノ庄城の堀のものと考えられる石垣がみつかっています。このことから、福井城の屋敷・施設と、北ノ庄城の石垣の痕跡を中心に調査を行いました。

遺構 福井城の遺構は前身建物によってほぼ壊れておりましたが、比較的残りの良い場所で土層断面を観察したところ、地表下約1.0mで福井城期のゴミ穴、地表下約1.8mで大規模な落ち込みを確認しました。落ち込みは、福井城築城の際の造成工事や前身建物の基礎によって破壊をうけているため詳細な規模は不明ですが、少なくとも幅3m以上、深さ2m以上で、検出した場所や規模から、

北陸銀行で確認された北ノ庄城の堀に繋がるものであると想定できます。石垣そのものは確認できませんでしたが、落ち込みを埋め立てた土の中に笏谷石の礫が多く混じっていたことから、もともとあった石垣が、福井城を築城する際に抜きとられたと想定されます。

まとめ 今回の調査により、平成5年に確認した北ノ庄城の堀が南へのびている可能性が高いことが分かりました。



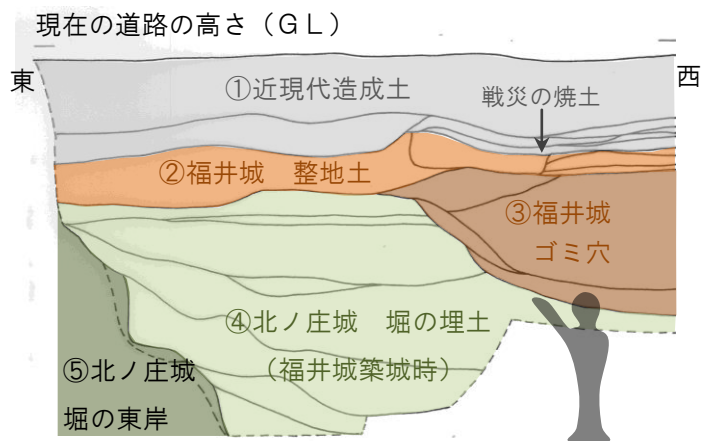


図1 落ち込み断面図 (S=1/80)



写真2 調査地断面 (北ノ庄城の堀跡)

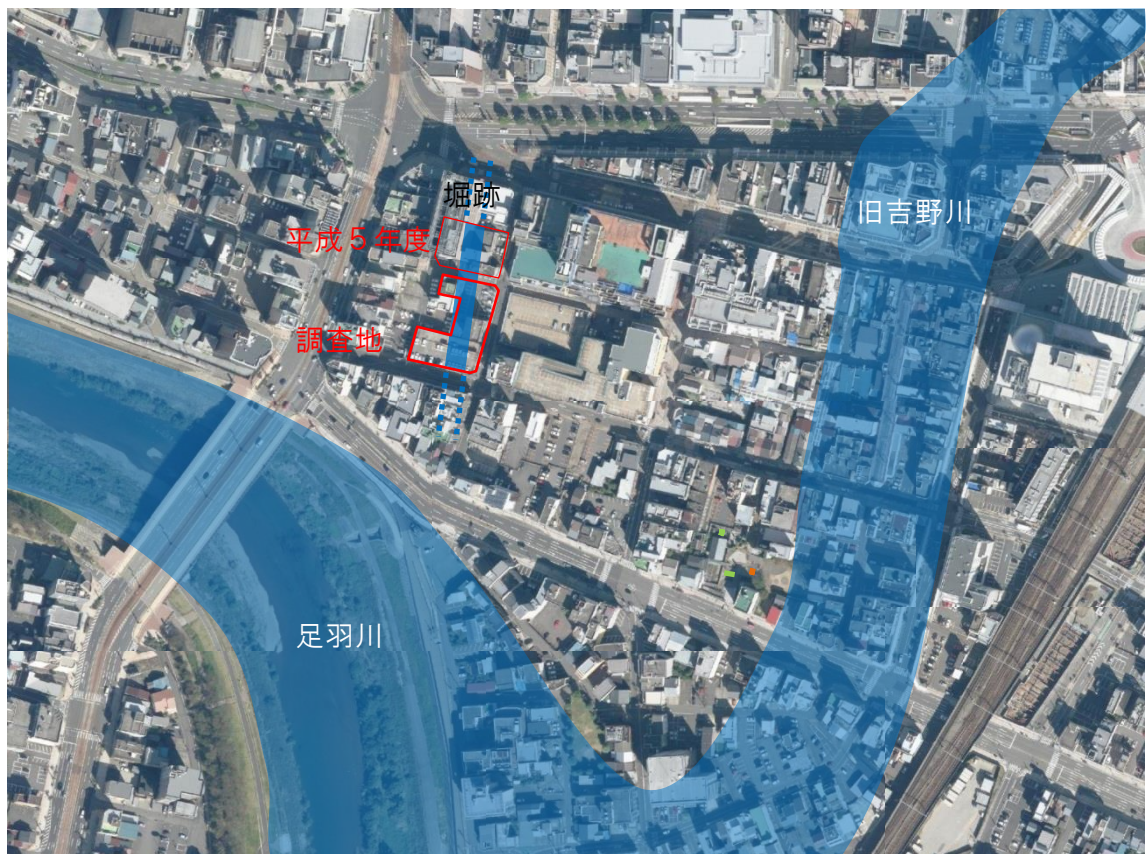


写真3 調査地と遺構(堀跡)の位置関係 (推定)